

作品の閲覧

2025-11-27

『吉野葛』

何でも読もう会

書物名	『吉野葛』	開催日	出席者
作者	谷崎潤一郎	11月25日	4名
<p>＜作品の内容等＞</p> <p>吉野の地は歴史のロマンを秘めている。そんな背景に「妹背山 婦女庭訓」「義経千本桜」「二人静」「狐かい」の話題や土地の伝説、歴史が登場する。それは主人公が南朝・後南朝の歴史小説を書こうとして吉野を訪ねた。</p> <p>その案内役に友人津村から、彼の母親の話を聞き、そちらに重点が移っていく。母のルーツは奥吉野での紙すきをしていることがわかる。そして・・・（あとは言わぬが花でしょう）</p> <p>＜皆さんの感想意見＞</p> <ul style="list-style-type: none">・花の吉野だけでなく、歴史の吉野が改めて感じられた。・隠れ里吉野に行ってみたいと思うが、厳しい環境かな。・白洲正子、平野敬一郎もこの本を読んだと思うと、読んでみてうれしい感じがした。・どうか心ない開発の魔手が近づいてもらいたくない。・南朝の血は絶えたが、川上村の郷土たちは毎年2月5日には、自天王を偲び、「御朝拝式」が1459年から絶えることなく続けられている。 <p>なお、谷崎は、これだけの取材をしているのに、なぜ小説化を諦めたのかを意見交換した。</p>			